

第3回 L-Swann カンファレンス

Limb Salvage and Wound Care Nursing Network Conference

創傷治療と機能回復のための リハビリテーション ～しっかり食べて、歩行するために～

重症下肢虚血や糖尿病性足潰瘍などの治療後に、リハビリテーションを開始しても廃用性障害が進行してしまい歩行できないことがしばしば起こります。経腸栄養剤を経鼻ルートで投与から経口摂取に変えることは重要ですが、嚥下の評価と嚥下リハビリテーションについては見落とされがちです。そのような観点から今回は今回のテーマは「創傷治療と機能回復のためのリハビリテーション」といたしました。

創傷に関与する医療従事者だけでなく、理学療法士、管理栄養士、透析病院でリハビリテーションに関心のある方々は、奮って参加いただくと幸いです。

13:20

開会の挨拶 大浦 紀彦 (杏林大学医学部 形成外科)

13:25~14:05

講演 1

「キズを予防するための免荷総論
～保存療法から手術まで～」

座長 大浦 紀彦
(杏林大学医学部 形成外科)

講演 菊池 恭太
(下北沢病院 整形外科)

14:10~14:50

講演 2

「しっかり食べるための
摂食嚥下、口腔ケア」

座長 市原 幸文
(桐生短期大学生活学科)

講演 古屋 裕康
(日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)

14:55~15:20

講演 3

「透析病院での
リハビリテーションの取り組み」

座長 北澤 直美
(ホスピスケアホーム ライフクロス)

講演 中西 延光
(吉祥寺あさひ病院リハビリテーション部)

15:50~17:30

症例検討

「困難症例を振り返り、様々な視点から考える」

事例提供: 杏林大学医学部付属病院 2例
下北沢病院 1例

座長 庭山 由香 (杏林大学医学部付属病院 看護部) 浦山 佳代 (吉川内科小児科 看護部)

コメンテーター
川名 典子 (杏林大学病院 リエゾン精神看護部) 山本 洋子 (杏林大学病院 形成外科部長)

2019. 2. 2 [Sat]

13:20 → 17:30

場所: 杏林大学医学部付属病院 大学院講堂
東京都三鷹市新川6丁目20-2

参加費
1,000円

L-swannとは

多摩地区で創傷に関する地域連携を行う施設の看護師のネットワーク。患者背景や患者家族の思いを深く知るの
は看護師である。医師どおしの連携では伝わらない部分に光を当てて連携をスムーズに行うことを目的とする。

講演概要

講演1 菊池 恭太 (下北沢病院 整形外科)

「キズを予防するための免荷総論 ～保存療法から手術まで～」

創傷治癒が得られる前からリハビリテーションを行うことが重要です。また治癒しても、足部変形のために、接地部の面積が小さく潰瘍化しやすい状況では、装具で対応することには限界があります。接地面積を大きくするための変形矯正手術を行うことによって、潰瘍の発生は激減します。その実際の方法とリハビリテーションについて足の外科の専門家からお話を伺います。

講演2 古屋 裕康 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)

「しっかり食べるための摂食嚥下、 口腔ケアでできること」

創傷治癒のための栄養管理は重要です。経口ルートを考えていく中で、最終的に経口摂取を目指す必要があります。経口摂取を開始した途端に、意識が清明になり認知症や不穏が改善することも少なくありません。嚥下評価法も、造影、内視鏡、超音波などを使用するし進歩しています。在宅と病院では評価方法も異なります。嚥下リハビリテーションの専門家からお話を伺います。

講演3 中西 延光 (吉祥寺あさひ病院リハビリテーション部)

「透析病院でのリハビリの取り組み」

透析患はもともとADLが低下しており、透析患者が足部に創傷を生じるとさらにADLが低下し、歩行困難となることが多い。したがって、日常的にリハビリテーションを行うことが重要である。重度のサルコペニアを通りこして廃用障害であることも多く、関節可動域訓練・筋トレから開始して歩行を目指す必要がある。透析病院でのリハビリテーションの取り組みについてお話を伺います。

症例検討

「困難症例を振り返り、様々な視点から考える」

創傷治療を開始すると、創傷だけではなく、栄養、不穏、リハビリテーション、本人のモチベーションなど様々な問題が発生します。特に高齢者の創傷治療は、キズのことだけ考えるのではなく、多角的に、全人的なケアが重要です。症例を通してグループで検討をし考え方を学びます。

事例提供：杏林大学医学部附属病院 2例
下北沢病院 1例

■杏林大学 三鷹キャンパスへのアクセス

三鷹駅 (JR中央線・総武線) 南口バス乗り場より [約20分]

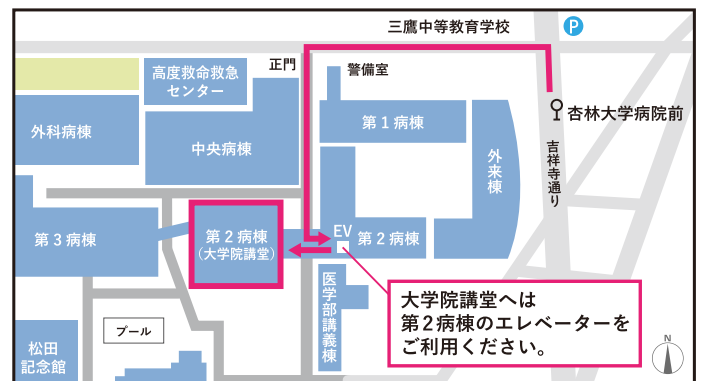
バス乗り場 (7番) 仙川行または見華学園東行「杏林大学病院前」
バス乗り場 (8番) 野ヶ谷行「杏林大学病院入口」

吉祥寺駅 (JR中央線・総武線・京王井の頭線) 南口バス乗り場より [約20分]

バス乗り場 (6番) 野ヶ谷行、深大寺行「杏林大学病院入口」
野ヶ谷経由調布駅北口行「杏林大学病院前」
バス乗り場 (7番) 仙川行、新川団地中央行「杏林大学病院前」

仙川駅 (京王線) より [約15分]

バス乗り場 (1番) 三鷹駅行または吉祥寺駅中央口行「杏林大学病院前」



お申し込み FAX 用紙 | お申し込み期限：2019年1月10日(木) →2月1日(金)迄延長

FAX

お申し込み FAX 番号

0422-46-6138

● 下記申込書に必要な事項を記入し、宛先までFAXをお願い致します。

※原則として、ご提供頂いた個人情報を第三者に提供・開示することはいたしません。ただし、データ入力等のため、予め秘密保持契約を締結している業務委託先に必要な限度において開示することがあります。

お問い合わせ先 杏林大学医学部附属病院 看護部 TEL:0422-47-5511 (担当:丹波)

■申込書 ご参加者様の情報をご記入ください。

	お名前	ご施設名	職種 (対象に○を記入願います)	ご連絡先
1	ふりがな		医師 看護師 認定看護師 薬剤師 OT/PT その他 ()	() -
2	ふりがな		医師 看護師 認定看護師 薬剤師 OT/PT その他 ()	() -
3	ふりがな		医師 看護師 認定看護師 薬剤師 OT/PT その他 ()	() -